

工事を行っています

遠江国分寺の建立

奈良時代の天平13年(741年)、時の聖武天皇は、農作物の不作や伝染病が流行していたため、仏教の力を借りてこれを取り除こうと、各国ごとに国分寺をつくるように命じました。このうちの一つが遠江国分寺で、国府(国の役所、現在の県庁にあたる)があった磐田に建てられました。

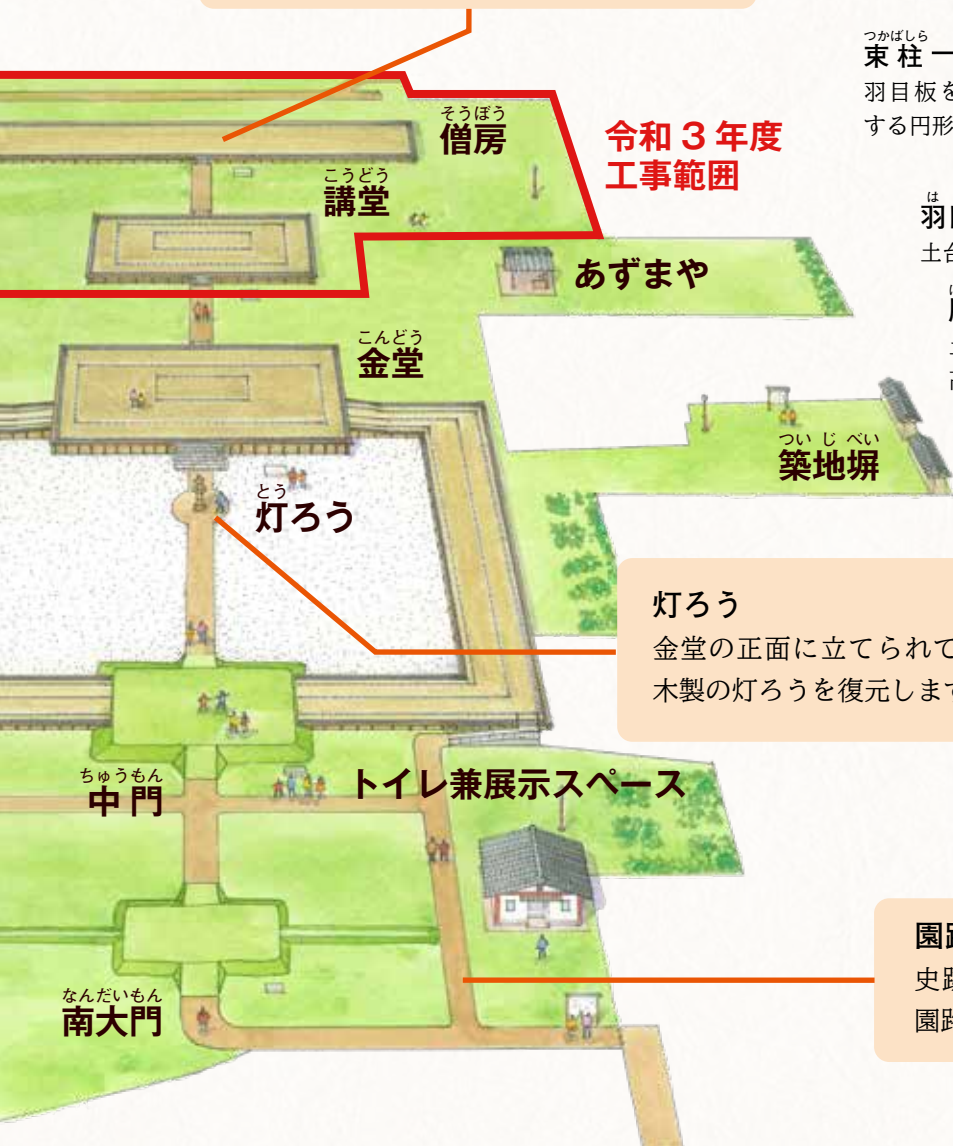
昭和26年(1951年)の発掘調査により、金堂・回廊・講堂・塔の跡が確認され、主な建物の配置が明らかとなりました。翌年には国の特別史跡に指定されました。



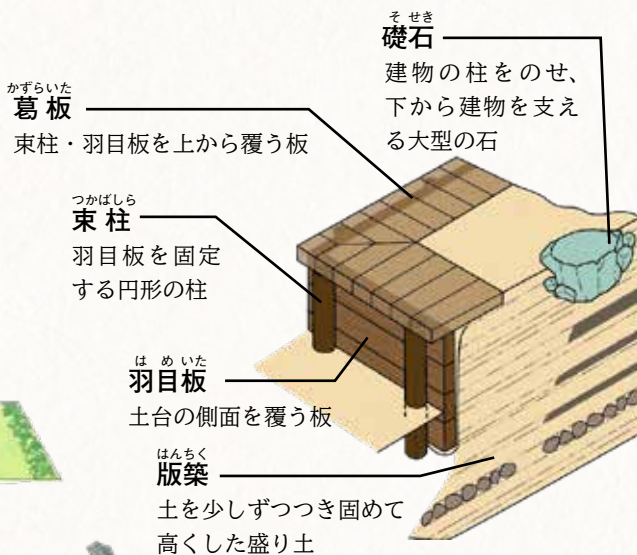
▲CGで復元した遠江国分寺

基壇整備

建物の土台である木装基壇を復元します。



令和3年度 工事範囲



▲木装基壇復元イメージ
版築の土台を板と柱で覆っていました。

灯ろう

金堂の正面に立てられていた木製の灯ろうを復元します。



▲灯ろう復元イメージ

園路

史跡内を散策しやすいよう舗装した園路を設置します。

遠江国分寺跡の再整備

遠江国分寺跡は、昭和40年代に史跡整備が行われました。その後、40年余りが経過し、整備した基壇跡には破損が見られるようになり、トイレや舗装した園路がないことから、より国分寺への理解を深めてもらえる史跡公園を目指して再整備事業を進めています。

今年度から再整備工事にとりかかり、公園の北側部分の樹木整理・取り壊し・造成の後、一部の園路設置・芝張りを行います。令和4年度からは基壇の復元などを順次進めていく計画です。

☎文化財課（埋蔵文化財センター内） ☎ 0538-32-9699 FAX 0538-32-9764

再整備にともなう発掘調査

平成18～26年度に、史跡指定地内の発掘調査を行いました。

建物の土台部分の基壇が木の板や柱で覆われた木装基壇であること、金堂正面に木製の灯ろうが立てられていたことが分かりました。また、僧房の跡も新たに見つかりました。



▲工事範囲航空写真（令和3年11月4日撮影）

樹木整理

樹木の根が地下に残る古代の国分寺の遺構を傷めていることが発掘調査によって判明しています。また、史跡公園全体の見通しを良くするために、やむをえず大部分の樹木は伐採します。

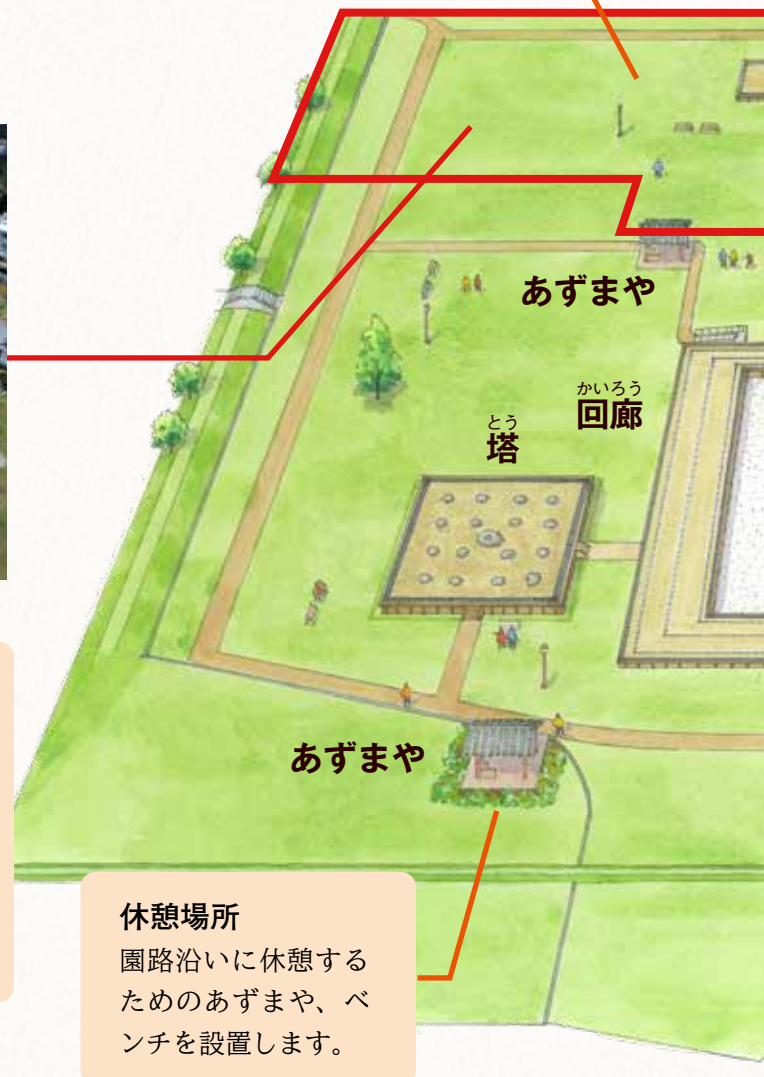
造成

凹凸を少なくし全体をフラットに造成します。

再整備イメージ図

芝張り

広場部分に芝を植栽します。



あずまや

休憩場所

園路沿いに休憩するためのあずまや、ベンチを設置します。